

ワーキンググループ及び中小企業振興委員からの意見を、第2次観光基本計画において小樽観光の課題として挙げられている4項目（観光資源、受入態勢、滞在時間、情報発信）に1項目（経済波及効果）を追加し、5項目にカテゴリー化した。

（1）観光資源

- 日本遺産認定の「北前船」「炭鉄港」、候補地域認定の「北海道の『心臓』と呼ばれたまち」のストーリーを活用し観光誘客につなげている。
- 映画やドラマ等のロケーション撮影支援、ロケ地マップを製作。
- 夜景については、運河倉庫群、金融資料館、北海製罐第三倉庫などにおいて夜間ライトアップを実施
- 小樽観光振興公社では小樽港内から市街地を見る屋形船遊覧を実施。

（2）受入態勢

- 小樽独自のおもてなし規格認証制度を運営する認証機構（事務局：観光協会）への支援のほか、おもてなしのエピソードを表彰する取組を実施。
- 市では経済産業省が創設した「おもてなし規格認証」の全国自治体初の取得を目指している。
- 外国語対応については、5か国語の観光マップの作成、観光現場で役立つ英語勉強会を開催する観光協会を支援。
- 宿泊施設については、小樽駅前や運河周辺においてホテルの建設が進んでおり、宿泊者の受入能力が増える予定のため、今後の需給状況を見ていきたい。

（3）滞在時間

- 後志管内20市町村、後志総合振興局、観光協会で構成される「後志観光連盟」において、道外旅行博、観光物産展、観光情報誌などの事業を実施。
- 北海道新幹線の札幌延伸を見据えて、道南地域との連携も重要と考える。
- 市内回遊性については、第3号埠頭、北運河、旧国鉄手宮線への回遊性の向上、天狗山、朝里川温泉、祝津方面を回遊してもらうためには情報発信が必要であり、各地域でのコンテンツの磨き上げに取り組んでいる。
- 巡るツールについては、フィルムコミッションや日本遺産のマップ、民間が作成したアプリケーションソフトなどを活用。

（4）情報発信・デジタル化

- 情報発信では、5か国語の観光マップを作成する観光協会を支援。
- おたる案内人がお薦めする小樽散策コース〔北運河、坂、祝津、神社〕マップを製作。
- デジタル化の推進では、SNS等で情報発信する観光協会を支援。
- テレビや雑誌、旅行商品造成等で使用する写真を無償提供。（小樽観光写真ライブラリー）

（5）経済波及効果

- 域内調達率について、令和6年度は観光客動態調査を、令和7年度は観光基礎調査を実施予定。調査結果を市民に知ってもらうことも重要と考える。